

# 鷹取山自然観察会会報

2016. 3.13 No.11

## 鷹取山蝶類について —2015年調査—

2014年に引き続き蝶類調査を行った。蝶は種ごとに違った食草をもち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。鷹取山自然観察会では2014年6月から会員により月一度の蝶類調査を始めました。この時の結果は会報7号に掲載しています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館によれば三浦半島には84種が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は35種、近年減少または絶滅に追いやられている減少種26種、温暖化などで増加傾向にある増加種7種、単発的に記録される偶産種9種、外来種7種となっています。

ここでは2015年5月から10月までの6カ月の間に見られた蝶類の結果を報告します。

### 1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に準じて行いました。調査ルートは植物相調査の図1のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました。区間の植生の特徴は図1に記載したとおりです。調査頻度は月一度第二金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ、キチョウ、ヒカゲチョウなど同定が難しい種については捕集網で捕集し、図鑑により確認し記録しました。



### 2. 調査結果

今回は、7回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2015年は35種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウの仲間やジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。

鷹取山の年別記録数

	科・亜科	種名	2014年	2015年
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○
2		オナガアゲハ	△	△
3		カラスアゲハ	△	▼
4		キアゲハ	△	×
5		クロアゲハ	▼	△
6		ジャコウアゲハ	▼	○
7		ナガサキアゲハ	△	×
8		ナミアゲハ	▼	▼
9		モンキアゲハ	▼	○
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×
11		ウラギンシジミ	△	▼
12		ウラナミアカシジミ	×	△
13		オオミドリシジミ	×	△
14		ツバメシジミ	△	○
15		ベニシジミ	△	○
16		ミズイロオナガシジミ	△	×
17		ムラサキシジミ	×	△
18		ヤマトシジミ	◎	◎
19	ルリシジミ	○	▼	
20	ジャノメチョウ亜科	コジャノメ	△	◎
21		サトキマダラヒカゲ	▼	○
22		ジャノメチョウ	×	△
23		ヒカゲチョウ	▼	▼
24		ヒメウラナミジャノメ	○	◎
25		ヒメジャノメ	△	▼
26	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○
27		スジグロシロチョウ	△	△
28		モンキチョウ	△	△
29		モンシロチョウ	▼	▼
30	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○
31		ダイミョウセセリ	▼	▼
32		チャバネセセリ	×	△
33	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△
34		アカボシゴマダラ	▼	△
35		イチモンジチョウ	×	△
36		コムスジ	▼	▼
37		ツマグロヒョウモン	○	○
38		ヒオドシチョウ	×	△
39		ルリタテハ	×	△
40	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×
41	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×

凡例 ×：なし △：1～3頭 ▼：4～10頭 ○：11～30頭 ◎：31以上

E 区間は杉林の林縁でありヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られた。F 区間は畑地もある場所でモンシロチョウ、ヤマトシジミなど観察できた。

今年新たに見つかった種はウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、ムラサキシジミ、チャバネセセリ、イチモンジチョウ、ヒオドシチョウの6種で35種が記録できました。また、昨年見つけて今年は見られなかったもの

は、キアゲハ、ナガサキアゲハ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、テングチョウ、アサギマダラの6種でした。このため、昨年と今年で合計41種となります。

### 3.その他

前号でお知らせしましたが2016年4月から環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して調査を行っていきます。調査結果は国のほうにも報告することになります。調

査の方法については変わりません。

蝶類調査は、2016年は4月から毎月2回行っていく予定です。観察することにより、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種もあるかもしれません。調査することは楽しみでもあり、鷹取山周辺の分布がはっきりしてくると思います。

5月の調査には三浦半島昆虫研究会の鈴木裕氏にご指導いただきました。感謝申し上げます。

調査に参加した人（鷹取山自然観察会）  
本多久男、中村紀雄、高橋和子、高橋毅一郎、島村健二、金子龍次、石垣正博、竹之下香苗（順不同、敬称略）

## 春咲く花 2題

小池順子

### アオキ

ガリア科（アオキ科）アオキ属

鷹取山に多く生える樹木です。常緑なので一年中濃い緑色の葉が茂っています。サクラやムクノキ、ハゼノキのような大きな木の裾に群れを成して、また単発的に存在します。照葉樹林のフォレストコミュニティの一員です。

冬は長さ2cmほどの赤い実をたわわにつけ花のない時季にかなり目立ちます。しかしこの実を鳥がつかばむのは見たことがありません。特に何かの役に立つ植物でもなく、あまり魅力は感じません。（写真：実、♂花、♀花）

雌雄異株で4月に開花します。赤褐色の小さな四弁花には4本の雄しべが目立つ雄花と、一つの雌しべがある雌花があります。1780年代、ヨーロッパにアオキが紹介されたものの、雌株だけだったので長い間実を観ることがなかったといわれています。今は雄株も導入され観葉植物として普通に栽培されているようです。

真鶴には淡緑色の花をつけるアオキがあり、高尾で発見されたシロミノアオキかなと思っではみましたが、実の頃には行ってません。しかし白い実をつけるアオキなら人の口に上っているはずで、おそらく赤い実なのでしょう。1913年に牧野富太郎博士が緑色の花のアオキにアオバナアオキと命名され発表しているということなので、これだったのかもしれませんが。アオバナアオキは赤い実をつけるといわれています。

近頃、ナンゴクアオキが話題になっています。アオキは4倍体で、ナンゴクアオキは2倍体であるといえます。徳島県立博物館の調査では徳島県と岡山県を結ぶ線を境にして西はナンゴクアオキが多く、東はアオキが多いとされています。しかしパッチ状にナンゴクアオキも四国東部に分布しているということが分かっています。

4倍体のアオキは東北～四国東部の太平洋側に分布しており、特に関東・東海地方の太平洋側は、独自の隔離分化が発現されたといわれています。温暖化に伴い、植物の分布も変わってきているかもしれません。



今のところ関東地方での存在は確認されていませんが、染染色体数の違いでは見た目ではどちらかを知ることは困難です。人と自然の博物館(兵庫県三田市)では、目で見分けられるアオキとナンゴクアオキの違いを発表しています。

アオキの葉の鋸歯の形の違いで区別できるというのです。アオキの葉の鋸歯の先は外を向き鋭い感じで、ナンゴクアオキの葉の鋸歯は先が内側を向いていて丸みを帯びているというのです。

さて、今まで「アオキか…」と見過ごしていたものの中にナンゴクアオキが潜んでいるかもしれません。

たかがアオキ、されどアオキ。たまには注目してみてもいいかもしれません。

## オオイヌノフグリ・フラサバソウ ウ・タチイヌノフグリ

(オオバコ科クワガタ属)

いずれも鷹取山に見られる早春の花です。これらはヨーロッパ原産の帰化植物で、オオバコ科クワガタソウ属の陽性植物です。

この仲間は茎と葉に毛が多く、葉腋に花をつけ実は二つ合わさった形をしています。一日花で夕方には花弁は落花してしまいます。オオイヌノフグリが一番先に咲き始め、タチイヌノフグリ、フラサバソウと続きます。秋に芽生えほぼ同じ場所にマット状に広がり、冬を越え早春から花芽を展開し始めます。

可哀相な名前で一身に同情を集めています。特にオオイヌノフグリが天気の良い日にコバルトブルーの花を一斉に開くとそこは美しく輝いて見えます。星の瞳、瑠璃唐草など別名もあるようですが定着していません。

クワガタソウ属 (Veronica) は聖書に出てくる聖女の名前で、十字架の道行きでキリストの汗を拭った布の色が鮮やかなブルーだったことからきています。

オオイヌノフグリのコバルトブルーのかわいい花は虫を引き寄せます。ハチなど虫が訪



オオイヌノフグリ



フラサバソウ



タチイヌノフグリ



タチイヌノフグリ ピンクの花

れてくれなかったときは、夕方花を閉じる前に雄しべ 2本が湾曲し雌しべの柱頭に触れて受粉します。つまり、生き残り戦略として、虫媒と自家受粉の二段構えなのです。

フラサバソウは、フランスの植物学者フランシェとサバティエの名前からきたもので、1876年来日し二人は伊豆半島や横須賀で植物調査、採集をしています。

フラサバソウは、オオイヌノフグリより花は小さく、花の色も淡く花茎はごく短いです。また、実に毛がないのが特徴です。荒れたところでも芽生え鷹取山では 2丁目の階段付近に多く見られます。最近、あちこちで目にします。繁殖力が旺盛なのか畑や路傍で群生しています。種子にエライオソームがあり、ハチだけでなくアリも繁殖に一役買っているのかもしれません。

タチイヌノフグリは、花期が長くやせ細っても花を咲かせています。鷹取山の公園の付近に点在しています。ここのタチイヌノフグリの花は青だけでなくピンク色のものもあります。近寄ってみると、花茎はなく葉の付け根に小さく5mmほどの花が咲いているのがわかります。

関東地方ではどこでも咲いていて目にすることが多いイヌノフグリの仲間は、春をイメージさせる花です。あまりにもありふれているので、足を止めてじっくり見ることはないでしょうが、小さくても路傍でしたたかに生きています。

## タンポポ今昔

市川 實

光村小学2年国語教科書に「タンポポのちえ」という教材があります。その挿絵から見るとセイヨウタンポポで、その知恵のおかげで、セイヨウタンポポはあらゆる所に広がり、春の訪れとともに花を咲かせます。

セイヨウタンポポは、明治の初めアメリカから札幌に来た宣教師がサラダにするために



植えたものが最初であると言われています。フランスでは今でもサラダとして食べているそうですが、日本では食べる習慣はありません。それなのに広がったのは、セイヨウタンポポは3倍体で、単為生殖なので花粉に関係なく種ができてしまうため、繁殖が旺盛で、在来種を駆逐し、日本中に広がったと説明されています。今では環境省指定要注意外来生物となり、日本の侵略的外来種ワースト100に指定されているそうです。私たちが目にするすべてのタンポポは、セイヨウタンポポで在来種のカントウタンポポは駆逐されてしまいました。(写真上：セイヨウタンポポ)

植物に興味を持ち始めた30年以上前のこと、上野の公園を歩いているとき、咲いているタンポポを見ると、何とカントウタンポポではありませんか。それまで図鑑でしか見たことがなかった、あこがれのカントウタンポポが都会の真ん中で生きていることを不思議に思いました。それからしばらくして、新聞記事に「シロバナタンポポが咲いている」とあるので、葉山カントリークラブの近くに探



カントウタンポポ

しに行き、見つけました。大阪から来た同僚に話すと、関西ではシロバナタンポポは珍しくないようですが、私はその時始めて見ました。また、勤め先の近くの弘明寺公園でも少しの株を見つけたり、鷹取山周辺にもあるというので、シロバナタンポポは、関西方面から進出して点々と広がっているのかもしれない。(写真：シロバナタンポポ)



これは私見ですが、セイヨウタンポポは乾燥に強く湿気に弱く、反対にカントウタンポポは湿気に強く乾燥に弱いように思います。都市部の空き地となったような乾燥しがちな所には、セイヨウタンポポは元気に群生しています。以前、法面が崩れて出てきたセイヨウタンポポの根は1メートル近くありました。この太くて長い根で、乾燥しても水分を吸収することができるのでしょう。反対に、あまり日が当たらない湿りがちな昔からかわらない野原などには、カントウタンポポが生えていても、セイヨウタンポポは生えていません。セイヨウタンポポとカントウタンポポは生育環境が違って、都市化することによってセイヨウタンポポが広がったのであるといえます。繁殖力より人為的に広がったといえるのです。

鷹取山のカントウタンポポも、石を切り出していた大正時代、それ以前の明治時代から環境は変わらなく生育続けてきたのでしょう。

繁殖力の強さから雑草として嫌われているセイヨウタンポポですが、根は、昔からコーヒの代用として使われていたようです。最近、根に非常に豊富な栄養素が含まれている

ことから、それを飲用することで、絶望的だったがん患者が奇跡的に回復したそうです。これは民間療法ではなく、カナダのウィンザー大学の研究チームがタンポポの根を使った治療を始めた結果、がん細胞が消滅したというのです。近い将来、「タンポポにはがんを消滅させる力があります」と発表する「その日」が来るかもしれません。

## モニタリングサイト1000 里地調査の登録について

鷹取山自然観察会が環境省から「モニタリングサイト1000里地調査」(モニ1000調査)の一般サイトに登録が認定されました。今後はモニ1000調査マニュアルに沿って4月から調査を開始します。申請にあたっては調査項目を植物相、鳥類、蝶類の3項目としました。申請にあたり、調査マニュアルを再検討した結果、野鳥については、繁殖時の5～6月の調査期間に日の出～朝8時までに6回行うこととなっていること。また、越冬期の12月～2月の調査期間に6回調査を行うこととなっていて、この調査方法では当会では調査困難であり、項目から外すこととしました。従って、モニ1000調査では植物相、蝶類の2項目となります。なお、蝶類調査は発生期(4月～11月上旬)にかけて、月に2回の頻度で実施することになっています。当会では従来月1回調査を行っていましたが、モニ1000調査マニュアルに沿って4月から月2回の頻度で行います。植物相調査では従来の方法と変わりありません。野鳥調査は従来通り、鷹取山自然観察会として12月～5月まで月一度の調査を継続していきます。

調査頻度が多少変わりますが、会員の方で植物相、野鳥、蝶類と興味のある調査に是非ご参加ください。名前を詳しく知らない方でも参加することで名前も覚えていきます。

モニ1000調査マニュアルについては実施機関である日本自然保護協会HPに掲載してありますのでご覧ください。<http://www.nacsj.or.jp/project/moni1000/howto.html>

## 横須賀市みどりの基本計画の改定計画（素案）の パブリックコメントへの回答について

「横須賀市みどりの基本計画」改定素案に対するパブリックコメントを求められたため、下の表のとおりパブリックコメントを提出しました。1月18日付で市のHPに回答が掲載されていたので報告します。

『パブリック・コメント』とは、横須賀市の基本的な政策案の策定に当たり、事前に内容を公表して市民から意見を募集し、それを考慮して政策の意思決定とするとともに、提出された意見とそれに対する市の考え方を公表する一連の手続をいいます。

意 見	横須賀市の回答
P.79《施策NO.6》小規模な樹林地の保全手法として「特別緑地保全地区」の指定を積極的に導入してほしい。また、市街化区域の樹林地を保全するための基金の充実もあわせて検討してほしい。	特別緑地保全地区の指定については、様々な課題を含め、今後、検討を行います。また、財源の充実についても、併せて検討してまいります。
P.83《施策NO.13》「生物多様性の確保に向けた調査の実施及び保全手法の検討」については、地元団体が実施している調査を活用しながら市内全域の生物調査などを取りまとめ、各地域の在来の動植物をどのように保全していくのか手法を検討してほしい。	ご意見のとおり、各団体が実施している調査を活用させていただくとともに、団体と市が協力して調査を実施するなどの手法を検討してまいります。
P.85《施策NO.15》「『公共施設における自然植生の保全に向けた考え方』の適切な運用』について、鷹取山公園など「よこすかの植生」で明らかとなった公共施設以外でも「保全配慮指針」を策定し、自然植生を保全してほしい。	本施策は、「よこすかの植生」で明らかになった6地区（自然植生を有する都市公園等）を対象に策定しており、鷹取山公園などについて、保全配慮指針を策定する予定はありません。 なお、貴重な植物に配慮しながら公園の維持管理に努めてまいります。
P.89《施策NO.24》「市街化区域内樹林地保全支援制度の運用」について、民有緑地を保全する手法として「特別緑地保全地区」と並び本制度が有効であるが、支援対象面積は年々減少していることから、目標を「保全対象面積の維持」ではなく、拡大の方向で検討してほしい。	保全対象面積の拡大は共通の思いでありませんが、現実的には、所有者の土地利用方針の転換や相続等の理由により対象面積が減少していることから、広報などで周知を行い、新たな保全契約を締結しています。計画では、維持していくこととしていますが、拡大に向けた努力は今後も継続してまいります。
P.94 中柱「身近にふれあえるみどりの充実」について、生態系の保全に役立っている「都市林」について、都市公園の中の記述で位置付けを明確にしたうえで、樹林地の保全を明記してほしい。	都市公園の種別ごとの内容に関する記述は、資料編に掲載する予定です。

<p>P.90《施策NO.26》「民有樹林地の保全手法の検討」について、法面保護手法をコンクリート化ではなく自然工法による緑化対策を推進してほしい。</p>	<p>自然工法による法面对策は、景観や環境面で効果を発揮するものと考えておりますが、整備後の維持管理面により、敬遠されている現状があります。よって、本施策に基づき、周知・啓発の手法を検討してまいります。</p>
<p>p108 全体的に見て、目標がおおよそ現状維持、継続、検討などとなっている。自然環境を維持・保全していくことの大変さは理解できるが行政目標としてハードルをもう少し高くして、努力してほしいと願っている。市民は努力したことは評価してくれると思っている。</p>	<p>達成目標は、5年後に成すべきものについて、具体的に数値化できるものと、そうでないものは具体的な表現で記載しており、低い目標を掲げているとは考えておりません。なお、継続、検討となっている施策については、成果実現に向けて、目標が達成できるよう、積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>p118 鷹取山公園を鷹取山周辺としてほしい。 鷹取山公園は鷹取山の一部地域であり、表現を変えてほしい。</p>	<p>ご意見のとおり、修正します。</p>
<p>p119 追浜・田浦・逸見ゾーンのめざすみどりの将来像において、「緑地保全地域制度及び特別緑地保全地区制度の導入に向けた検討」「市街化区域内樹林地保全支援制度の運用」を加えてほしい。</p>	<p>ゾーン別計画の「めざすみどりの将来像」の「主な施策」には、重点施策を中心に記載しており、その他の施策については「など」に含めています。ご意見を踏まえ、「市街化区域内樹林地保全支援制度の運用」については追加します。なお、「緑地保全地域制度及び特別緑地保全地区制度の導入に向けた検討」は、重点施策でないため記載しませんが、「など」に含まれているものと考えております。</p>
<p>P.119追浜・田浦・逸見ゾーンのめざすみどりの将来像において、「地域の貴重な自然環境の保全・活用に向けた検討」の主な施策として「公共施設における自然植生の保全に向けた考え方の適切な運用」を加えてほしい。</p>	<p>公共施設における自然植生の保全に向けた考え方の適切な運用」は、上記No.35のとおり、重点施策でないため、記載していません。なお、いただいたご意見を踏まえ、今後の都市公園の適切な運用に努めてまいります。</p>

## 鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP：鷹取山自然観察会 (旧 鷹取山の花と樹)

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori\_0721@nifty.com

tel : 090-4177-0164